

# エンカウンター (ENCOUNTER)

## 第 192号

平成30年4月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

カウマン夫人著『日の出に向かって』より (4)

4月3日

コリントにある神の教会、すなわち、私たちの主イエスの御名を  
至る所で呼び求めているすべての人々とともに、キリスト・イエ  
スにあつて清められ、聖徒ととして召された方々へ。このキリス  
トは、私たちの主であり、また彼らの主であられる。

(コリント I 1・2)

何故聖徒は聖徒なのでしょう

それは簡単です

楽しくあることが難しかった時

かれらは陽気だっただけです

我慢することが難しかった時

忍耐強かっただけです

静かに立ち止まっていたいと思った時

かれらはどんどん進んでいっただけです

話したいと思った時

口を閉ざしていたからです。

そして意見を異にしたいと思っとき

かれらは一致したのです

ただそれだけのことです

だから聖徒らしさというのは、愚かであることもある

4月7日

ユダの家ののがれて残る者は再び下に根を張り、上に実を結ぶであらう。(列王記下 19・30)

秋も深まった数カ月前のことです。著者はある花屋の温室にいました。そこは地下室で、私たちは発行の名kあに整理棚に整然と並んでいた永井は地の列を見ることができました。花屋は冬用の鼻にするために、球根を埋めてであると説明しました。暗い所で値を出しす事が一番良い方法だったのです。…そうしてしばらくして、花が咲く日のために、準備させられていったのです。その花のあでやかな色は、人々の心を慰めることでしょう。さらに、甘いかおりは冬空にいっぱいにあふれることでしょう。光の中で花開くために、闇の中に根を張っていたのです。値が張って、そして、花が咲くのです。

生命力の最も強い草木は、目に見えない値が最初に大切なのです。

もし、私たちの根が、永遠お泉を発見しているなら、私たちがどこで生活をしようとか、どんな天候に会うとかは、全然関係ありません。

ペルシアの詩人は、こう書き残しています。

私の根が暗闇で枯れなければ、私の葉は必ず風の中で歌を歌う。

4月9日

イエスは言われた、「人にできないことも、神にはできる」。

(ルカ 18・28)

お前はやせた土をとって、大いに苦勞し骨を折ったとしても、百合を咲かせることができるか

お前はそうすることができない。なんと無力な人間よ。神に信頼せよ。一神にはできる。

お前は夕べの雲に色づけできるか。そして、すべての夕焼けの色を空に織り込むことができるか

お前はそうすることはできない。なんと無力な人間よ。神に信頼せよ。一神にはできる。

お前は自分の悩める心を静め、そして思い煩いや疑いを、お前の魂から取り去ることができるか

お前はそうすることができない。なんと無力な人間よ。神に信頼せよ。一神にはできる

お前の神は、お前が信じて願い求めることは何でも成し遂げて下さる

4月14日

また、生きているものである。私は死んだことはあるが、見よ、限りなく生きているものである。そして、死と黄泉のかぎを持っている。(黙示録1・18)

春のまばゆい光や、鳥たちのさえずる歌声や、百合の甘いかおりや、明け方の日の光とともに、全く新しい朝が明けました。そしてそこに悲しみに沈んだ婦人たちが、暮石の取り去られた墓を見つけました。白い衣を着たみ使いは、今まで人間に語られたことのない素晴らしい話をしました。

「その方はここにはおられない。よみがえられたのだ」。

「私が生きるのだから、あなた方も生きる。」私たちは、同じ神の御力によって、イースターの朝を迎えます。私たちに対しても、「その方は、ここにはおられない」と語りかけられています。これが私たちの信仰です。これが、イースターの朝の偉大な希望でもあるのです。

信仰はイースターの日、あの夫人の涙をふき取ります。なぜならば、信仰がイースターの日、空になった墓に朝早く急がせたからです。…

私は死後の命が、いったいどこにあるのか知らない。しかし、イースターの夜明けは、その死後の命に導く道である。

4月17日

私の手や足を見なさい。まさしく私なのだ。(ルカ 24・39)

私たちの主の復活の時から今日に至るまで、神を熱心に求める人間の魂は、生けるキリストの存在を認めることができました。「信仰はオリブ山にあり、愛はガリラヤにある」ということは、イエスの時代でもそうであったと同様に、今日でも真理です。

聖書の読者は、イエスが弟子たちにご自身を明らかにされたことや、弟子たちが生きた主の臨在を認めたことに、いつでも興味をそそられます。

かつてイエスが12人お弟子たちに語られたように、坤為地、私たちも語られるのを聞くのです。「まさしく私なのだ」。クレオパと彼の友人がエマオで主が解ったと同じように、私たちも主を知らなければなりません。…トマスが、「わが主よ、わが神よ」と心の底から謙虚になって叫んだように、私たちも叫びたいものです。そうです。「信仰はオリブ山にあり、愛はガリラヤにある」と言うことなのです。なぜならば、私たちの人生に苦難の中や、ディボーションの経験を通して、主にお会いするからです。

今日、私は人生のすべてにおいて、私の前を歩まれる主を見つめつつ、主に聞き従う。

4月20日

あなたに、暗い所にある財宝と、  
ひそかなところに隠した宝物とを与えて、  
私は主、あなたの名を呼んだ。  
イスラエルの神であることをあなたに知らせよう。  
(イザヤ 45・3)

…わたしはもう何も見ることができないと認めざるを得ない日がや  
ってきたのです。医師は、私が完全に生涯盲目であることを伝えま  
した。その日は私にとって真っ暗な日であり、目の上に該当を覆い  
かぶせたよりももっと暗く、私の心も魂もうちのめされて、精神的  
にも霊的にも暗い日でした。

私は熱心に祈ったり瞑想したりして、新しい平安と力とを見出す  
ことができました。…

私は1日の大部分を、勇気と喜びに満ちた日にすることに決めま  
した。…私は暗黒の世界に住んでいますが、私は一人ではありませ  
ん。

暗闇の中でも、私に光を投げかけることのできるお方が、私と一  
緒に歩いて下さいます。そしてその方の臨在によって、私はこれま  
で見出すことのできなかつたキリストの豊かさや、暗黒の中の財宝  
を発見しました。そのお方は創造主なる神であって、私に夜、歌を  
歌わせて下さる方なのです。

4月23日

詩とさんびと霊の歌をもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌を歌いなさい。(エペソ5・19)

歌声は、まるで魔法のように曇り空を澄み渡った空に変えます。人が歌を歌おうとするとき、喜びの内にわざがなされます。誰もが愛する人を愛するように、人は誰でも、こらえきれずに喜びを歌に表現する人々が好きです。讚美は神からの、人に与えられる豊かな贈り物の一つです。

主にあなたの心の悩みを打ち明け

あなたが一人ぼっちでいることも

主に言いなさい

何をしたらよいか全然わからない時

主にあなたの弱さを

神の強さに委ね

歌を歌いなさい、

多くの人々は、信仰生活を喜び楽しむよりも、耐え忍んでいる。



4月25日

私たちの推薦状は、あなた方なのである。それは、わたしたちの心に記されていて、すべての人に知られ、かつ読まれている。

(Ⅱコリント3・2)

私たちがこの世にささげることが出来る者のうち、神の像の刻印を受けた人格以上に素晴らしいものはありません。すなわち、神の像の刻印を受けた人格以上に素晴らしい者は他にありません。すなわち、神が私たちの内に住んで下さり、神が私たちを通して、ご自身をあらわして下さるものとなることです。

ああ尊い贖い主よ

私はあなたのようにになりたいのです。

私の理解を超える心理であり

私と決して切り離せない事実とは

私は土でできた器でしかないが

イエスが私の心に住んでおられる

それが事実であると知ること h s 南都ロコバス

主ご自身が言われました。

「私はあなたの内にいる」と。

4月27日

あなた方は、私に対して悪をたくらんだが、神はそれを予期に変らせて、今日のように多くの民の命を救おうと計られました。(創世記 50・20)

困難は祝福です。それは次の票なことをもたらします。すなわち、それによって私たちは丸くされ、繰り返される困難は、私たちを均整の取れた美しい人間へと、のみで刻んでいきます。耐え忍びなさい。それはテストされ、心見られ、やがて結果が明らかにされます。喜びなさい。もし正しく用いられるならば、困難は勝利へと変わっていきます。困難な中でも喜んでいなさい。心を静めて、じっとし、静かにしていなさい。神を信じなさい。

問題に身を任せなさい。不平を言ってはいけません。静かにしていることが、問題を解決する方法です。すべて喜びとみなしなさい。あなたの心臓をあなたが聴けるぐらい、鼓動させてごらんください。必ず心臓の病気になります。あなたは様々な悩みで悩んでごらんください。そうすれば、脳の病気が誘発されるでしょう。問題をなやみ、心配しなさい。それであなたの健康は壊されます。

私たちは、私たちの困難な問題をいつの日か驚きと感謝をもって振り返り、見ることができるのです。

神が耕されるときは、種をまこうとして耕しておられる。

## 4月29日

そこで、民は遠く離れて立ったが、モーセは神の居られる濃い雲に近づいて行った。(出エジプト 20・21)

雨がパラパラと音を立てて窓にぶつかり、そして陽気に「今日は」と語る時の音は、何と気持ちの良いものでしょう。空に全然雲が無くても、雨が降ることを今まで見たことがありますか。雲は自然界における神の容器であり、前触れでもあります。しかし雲は太陽をさえぎり、月や星を覆い、そして地平線を縮めさせます。

雲はどんな恵みをもたらすのでしょうか。それは柔らかな豊かな土屋、作物の成長や、結実をもたらす雲なのです。

しばしば私たちは、愚かにもすべての日が明るく、快晴の日であってほしいと望みます。だから雲が広がると落胆し恐れます。

悩みや試練の黒雲は、神の恵みの伝達手段であり、私たちの心を柔らかくし、豊かにして、神のために実を結ぶ役に立つものにするために、神から送られたものであると私たちは気が付きません。神は厚い雲を通して見ておられ、ご自分の民を見守られ、養われることを覚えなさい。神を信じて元気でいなさい。